

平成27年度 全国学力・学習状況調査
～石狩市における結果の概要～

石狩市教育委員会

はじめに

本市の子ども達の学力は、教科ごとの平均正答率をみますと、全国平均を下回り、昨年度に比べ小学校、中学校ともに全国との差が広がるなど厳しい状況がみられました。また、全国の下位25%と同じ正答数の範囲に属する児童生徒の割合（以下「下位層の割合」という）は、今年度、小・中学校で増加し、全国との差が広がるなど大きな課題が残りました。

しかし、小学校の理科においては、前回は平成24年に比べると全国との差が縮まりました。学校ごとにみますと、すべての教科において全国平均を上回る小学校が2校あるなど、学力向上に向けて成果をあげている学校もみられます。

全国学力・学習状況調査の正答率が低いということは、「習得することが望ましいと国が判断した個別の学習内容」が身に付いていない状態にあることを示しております。さらに下位層の割合が多いということは、「社会で自立して生きていくために必要最低限の学力」を保障する観点からも、特に大きな課題と捉えております。

本調査は、「学力」だけではなく、家庭での生活習慣や学習習慣を含めた「学習の状況」も調査分析の対象としています。

児童・生徒質問紙からは、「理科の勉強が好き」、「理科の授業が分かる」と回答した割合は、全国平均を上回っています。しかし、平日（月～金）に「3時間以上ゲームしている」、「3時間以上携帯、スマートフォンを使っている」小・中学生の割合は、依然として全国平均を上回り、家庭の学習時間とのバランスにおいて大きな課題となっています。

学校質問紙からは、「宿題を出す」、「保護者への啓発」、「教職員間の共通理解」など、家庭学習の定着に向けた学校の取組に大きな改善が見られ、全国平均を上回りました。また、「礼儀よく、落ち着いた授業態度」、「私語が少なく落ち着いている」など、規律正しく、落ち着いて生活・学習に取り組む現状も見られました。さらには、近隣の小中学校と教科の指導内容や指導方法の連携を図り、地域の人や保護者の学校支援ボランティアを積極的に受け入れるなど、学校の教育水準向上に結び付けている実態も読み取れました。本市では「全国学力・学習状況調査」の他に、市独自に「CRT検査」を市内全校で実施しています。市内各校では、それらの調査結果も併せて総合的に分析し、自校の教育指導の改善を図っていることが、設問の回答から伺えます。

教育委員会としては、今回の結果と合わせ、児童・生徒の受け止めも大切にしながら実態に正対し、これまでの取組の成果と課題を客観的に判断し、今後の対策を明確にしていくことが重要であると考えています。

子ども達の学力向上のためには、市民の皆様と成果と課題などを共有し、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことが不可欠であると考えます。今後とも、市民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

小学校第6学年及び中学校第3学年

3. 調査の内容

- (1)教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
- (2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒及び学校に対する調査）

4. 調査の方式

平成19年度～21年度は全国すべての小中学校を対象として、平成22年度は、抽出（全国で約30%）及び希望利用調査として実施されました。平成23年度は「東日本大震災」の影響で全国一斉での実施は見送られ、北海道では、札幌市を除く全ての市町村の希望参加による実施となり、平成24年度は、平成22年度同様の形式で実施されました。

平成25年度以降は、平成19年度～21年度と同様、全国すべての小中学校を対象として実施されました。

※問題の詳細については、「国立教育政策研究所」のホームページを参照してください。
「国立教育政策研究所」(<http://www.nier.go.jp/12chousakekkahoukoku/index.htm>)

5. 調査実施日

平成27年 4月21日（火）

6. 調査実施学校数及び児童生徒数

小学校 13校（市内全校）551名 中学校 8校（市内全校）543名